

路面電車と これからの札幌

路線のループ化や
新型低床車両の導入を盛り込んだ
具体的な計画が完成

1日平均約2万人を超える利用があり、地下鉄やバスと並び公共交通機関として、大きな役割を果たしている路面電車。

市民議論などを経て平成17年に存続が決まった後、活用方法や経営のあり方などについて、さまざまな議論が交わされました。そこで出された意見などを踏まえ、今年4月に「路面電車活用計画」が完成。今回の特集では、その計画の概要を紹介します。

この特集に関するお問い合わせは、都市交通課 ☎211-2492



路面電車に関する これまでの経緯

平成17年

市民アンケートによる市民の意向などを踏まえて検討を重ね、**路面電車の存続が決定**。さらなる活用を図るため、学識経験者による検討会議を開催

18年

同会議から、「**まちを元気にするため、大通・すすきの・札幌駅周辺の3地区を結ぶよう延伸をすべき**」との提言を受ける

延伸の費用やそれに伴う経営などの検証を進める

22年3月

市は、市電の経営基盤の強化とまちづくりへの活用を図るために**延伸すべきと判断**。延伸の検討地域として「**都心**」「**創成川以東**」「**桑園**」の3地域を設定

22年4月～

経営や延伸についてのパネル展や市民会議を開催。市民の皆さんから具体的な延伸ルートについて多くの意見を受ける



22年に開催した市民会議には無作為に抽出された市民が参加。採算性の向上や新車両、延伸などの議論が行われました

24年4月

さまざまな意見を踏まえ
路面電車活用計画が完成

計画の一部を紹介

平成27年
春までに
実施予定

路線のループ化や 新型低床車両を導入

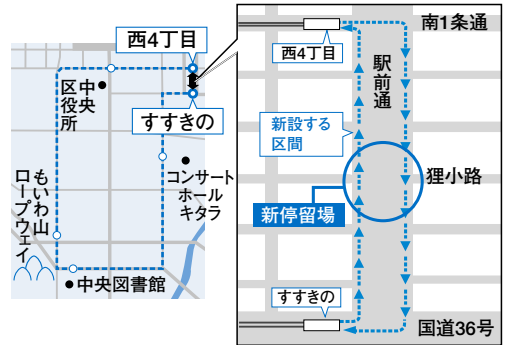
より便利で暮らしやすいまちにするとともに、新たな魅力やにぎわいをつくり出すため、路線のループ化（環状化）など、さまざまな取り組みを行います。

ループ化

27年春
開業予定

西4丁目～すすきのの停留場の間に 新たな路線を設置

駅前通の西4丁目～すすきのの停留場の間の約400mを結びます。これにより、例えば、すすきのから中央区役所まで向かう際は、路線を遠回りせず、より短い時間で行くことができますようになります。



ポイント

この区間は、電車が道路の歩道側を走る「サイドリザベーション方式」を採用。歩道側から乗り降りができるようになります。

〈データ〉 ループ化の費用:約19億円

新車両

27年春までに
3車両導入予定

高齢者も乗り降りしやすい 新型低床車両を順次導入

乗降口を低くすることで停留場との段差を少なくし、高齢の方など誰もが利用しやすい車両にします。また、全長を延ばし、定員を現在の約60人から2割程度増やします。



ポイント

本年度、1車両の製造を開始し、来年春ごろから運行。27年春までにさらに2車両の導入を予定しており、その後も計画的に導入します。

〈データ〉 1車両当たりの費用:約2億6,000万円

停留場

新しい路線の停留場周辺を にぎわいのある場所に

新設する狸小路の停留場などは、都心の街並みにふさわしいデザインを導入。また、観光情報や路線沿線のイベント情報などが得られる仕組みづくりを進めます。



ポイント

新しい停留場の周辺などでは、地域と連携した催しの実施のほか、歩行者も利用できる休憩スペースの設置も検討します。

そのほかにも

今ある路線をもっと便利にします

停留場のバリアフリー化を進めていくほか、老朽化した線路を振動や騒音を抑えるものに順次取り替え、乗り心地の向上を図ります。また、来年度には、ICカードSAPICAでも運賃の支払いができるようになります。



路面電車 Q&A

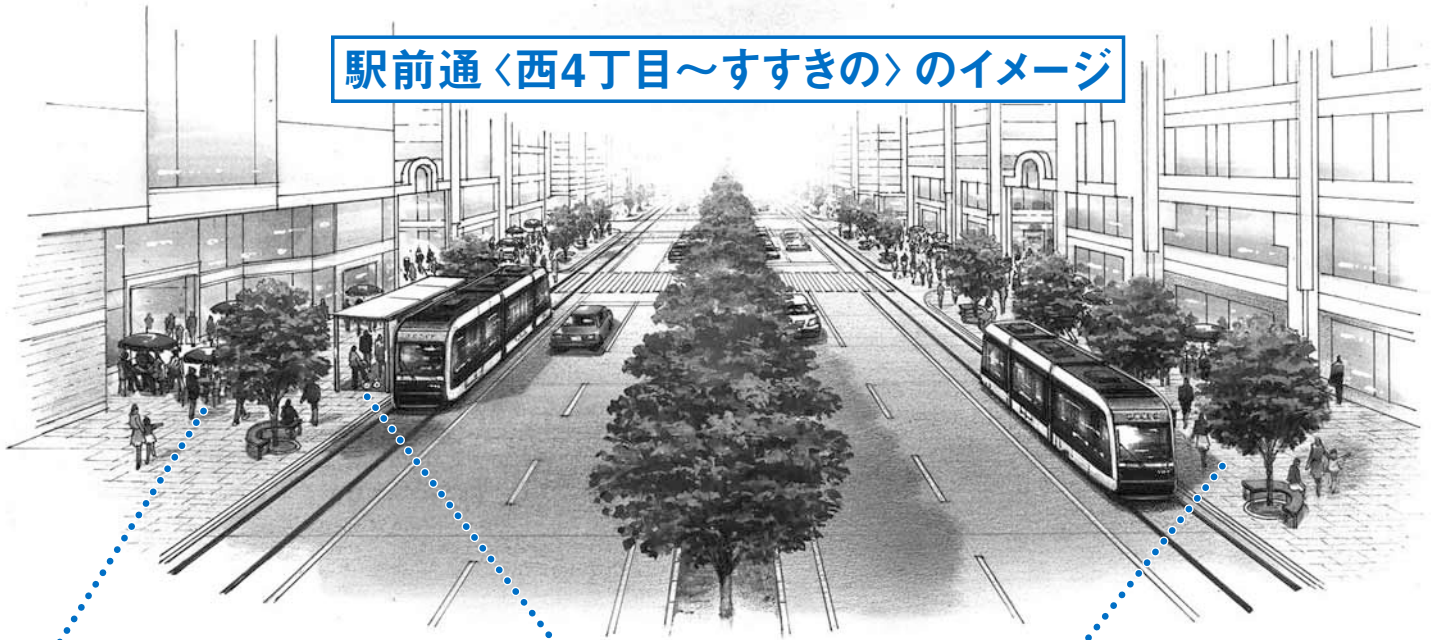
Q 停留場のバリアフリー化は、いつから進めていくの？

A:27年度ごろから、道路の拡幅工事と連携して進めていきます。バリアフリー化により、停留場の幅が広がるほか、スロープも設置され、高齢者なども利用しやすくなります。

路面電車を活用して より魅力と活気のある街へ

新しい路面電車は便利な交通網やデザイン性の高い景観を創り、都心に新たなにぎわいを生みだします。そうした魅力と活気のある都心部を創ることで、まち全体の活性化につなげていきます。

駅前通〈西4丁目～すすきの〉のイメージ



楽しくまち歩きができる
にぎわいに満ちた都心に



歩行者天国などの沿道の催しに路面電車を活用し、にぎわいをつくり、まち歩きが楽しくなるようにします。また、季節や風景に合わせて装飾した電車の運行も検討していきます。

高齢者などにも優しい
誰もが移動しやすいまちへ



サイドリザベーションの導入により、歩道から安全に乗り降りすることができます。また、新型低床車両も導入し、高齢の方なども、気軽に都心に來られるようになります。

デザイン性の高い
魅力あふれる空間に



運行車両約30両のうち、平成35年までに半分程度をデザイン性の高い新型低床車両とする見込みです。導入により、車両と沿道の緑や街並みが調和した、美しい空間を目指していきます。

路面電車 Q&A

Q なぜ、都心部を中心に整備を進めるの？

A: 魅力的な都心は、国内外から多くの観光客を引き寄せるほか、市民の外出の機会を増やし、行動の範囲を広げるなど、まち全体の活性化につながると考えています。そのために、路面電車を活用して、環境に優しい便利な交通網や新たなにぎわいを、「まちの顔」である都心部につけていきます。

Q 「都心」「桑園」「創成川以東」への延伸はするの？

A: 本年度から札幌駅方面への延伸に関する具体的な検討を進めます。また、「桑園」「創成川以東」についても、各地域の再開発などの動向を踏まえて検討していきます。



経営の健全化に向けて

路面電車は、赤字で厳しい経営状況が続いています。今後は新型低床車両の導入や路線のループ化を行いながら、経営の効率化に努め、収支不足の解消を図っていきます。

現状

乗客減少などで厳しい経営状況

乗客減による収入の減少などにより、経営は厳しく、22年度は、約8,000万円の赤字となりました。今後は老朽化による設備の更新などで、平成36年までに約25億円の費用が掛かると見込んでおり、現在の路面電車の収入だけでは経営が困難な状況になっています。



今後

経営の効率化や利用者負担のあり方を見直すことで赤字を解消し、自立した経営を確立

1

経営形態の見直しの検討と人件費の削減

- ・市が施設を保有しながら、他の事業者が路面電車の運行を行う仕組みの活用など、経営形態の見直しを検討
- ・当面の間、非常勤運転手の活用を進め、15%程度の人件費を削減

2

運賃制度を見直し

- ・今後の収支の見通しや、地下鉄やバスなどの運賃水準を踏まえ、15%程度の見直しを検討

参考(現在):路面電車170円(均一運賃)
地下鉄200円 バス200円 JR160円(いずれも初乗り運賃)

3

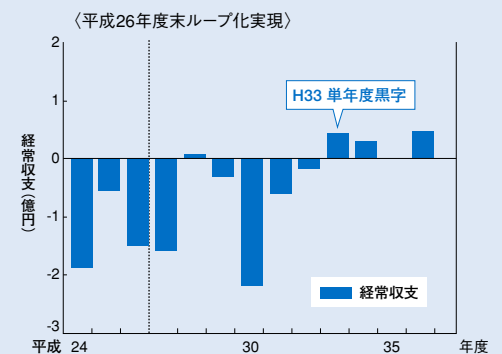
新たな設備への費用と今後の運行・維持の費用について

- ・ループ化や新型低床車両の導入など、新たな設備への投資は、国の補助制度を活用しながら、税負担により実施
- ・車両の運行や、工場や車庫など施設の維持・管理は、運賃などの収入により負担

路面電車 Q&A

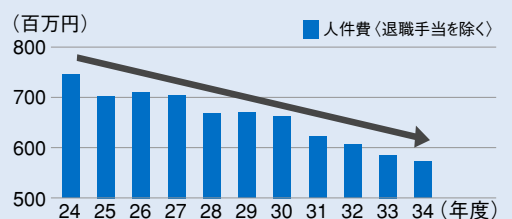
Q 今後の収支の見込みは?

A:左記1~3の実施を見込むことで平成33年頃に単年度の黒字化が図られます。その後も、安定した黒字が見込まれています。



Q 人件費はどれくらい削減されるの?

A:上記の収支見込みの中では、10年間で約1.6億円の人件費の抑制を見込んでいます。



路面電車をまちの力に

路面電車の経営は厳しい状況が続いていますが、市は、経営の効率化とともにループ化などの新たな取り組みを進め、路面電車を生かしたまちづくりを行っています。運転開始から90年以上の間、市民の足として札幌の発展を支えてきた路面電車。その特性を生かした、新しい札幌のまちづくりについて、今一度、みんなで考えてみませんか。

「路面電車活用計画」を配布しています

路面電車を活用したまちづくりの展望や、本計画の策定に当たって市民の方から寄せられたご意見などを示した「路面電車活用計画」を配布しています。

配布場所 市役所5階都市交通課、区役所など

